

## 式 辞

校庭の桜も咲きそろい、生きるものすべてに生命のいぶきがみなぎる希望の季節を迎えました。この春のよき日に保護者の皆様のご臨席を賜り、広島県立佐伯高等学校第七十四回入学式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであり感謝にたえません。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大を受け、感染拡大防止措置として、在校生や来賓の方々の参列を見送り、人数を抑えて、保護者の皆様と、教職員で入学生を迎えるように県立学校を上げて決定したところでした。大切な行事である、入学式を実施するための緊急避難的な措置であることをご理解いただきたいと思っております。

ただ今、入学を許可いたしました三十三名の新入生の皆さん、入学おめでとうでございます。また保護者の皆様のお喜びもいかばかりかと拝察いたします。心からお慶び申し上げます。

さて、この佐伯高等学校は昭和二十一年に開校し、地域の学校として愛され今年で七十四年目を迎える伝統校であります。一方で、中山間地域の少子・高齢化が進む中、まさに生徒数減少という課題に直面しております。そうした中、廿日市市・地域・同窓会・PTAの多くの皆様にささえられ応援していただいております。

おかげをもちまして、地元中学校をはじめ、市外や県外の中学校からそれぞれ目標を持った新入生を迎えることができました。本校に入学するために親元を離れ、夢や目標を実現するために、新しい一步を踏み出した人もいます。高校生活への期待と不安でいっぱいのことと思っております。

本校の少人数を活かした数々の取組は、一人ひとりの個性、可能性を伸ばしています。学校行事も全員が運営にかかわらなくては成立しません。その中で責任感や絆、人を思いやる心、感謝も生まれます。生徒全員が協力し合うことで、困難や試練を乗り越えることができます。

高校生活のスタートとなる本日、新入生の皆さんにお願いがあります。皆さんは、本校を目指し、入学選抜をして選ばれた人たちです。このことを踏まえて、改めて、「自分は高校へ進むのだ。」と決意したときの気持ちを忘れないで欲しいと思っております。高校生活では、つらいことや苦しいこともあるかもしれませんが。そういうときには、今日の気持ちを思い出し、勇気をもって自分を励まして乗り越えていってください。英語のことわざに「天は自ら助くる者を助く」という言葉があります。他人に頼らず、自立して努力する者には天の助けがあり、必ず幸福になるという意味で 怠惰な者には、決して幸福は訪れないということです。高校は義務教育ではありません。自ら鍛え、卒業まで頑張りとおす覚悟が是非とも必要です。

また同時に他者を尊重できる人になっていただきたいと思っております。いじめ等、誰かが悲しい思いをする行為は本校では絶対に許しません。もし悩んだら周囲の仲間・先輩・頼りがいのある本校の先生方に遠慮せず相談をしてください。ひとりで考えるより複数で知恵を出すほうが、早く悩みや問題の解決につながると思っております。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、重ねてご入学のお慶びを申し上げます。これまで十五年間、お子様をここまで立派にお育てになられたことに対し、心より敬意を表します。本日、大切なお子様を確にお預かりいたしました。私ども教職員は、ひとり一人を大切に全力で育てあらゆる教育活動を通して、教え導いてまいります。学校と家庭は車の両輪のような関係であることが子供の成長には大切であること考えます。保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針についてご理解をいただきますとともに、ご支援とご協力を賜りますよう何卒宜しくお願い致します。

新入生三十三名の本校での三年間が、楽しく充実した高校生活となるよう祈念して、式辞といたします。

令和二年四月七日

広島県立佐伯高等学校

校長 近藤哲生